

## 魅力のある現場が「未来の現場」

マシンコントロール  
魅力ある現場へ繋げる

「うちの会社は積極的に新技術を取り入れて品質向上に努めることを方針としています。」と話すのは、岡山県に拠点を置く（株）荒木組様の現場代理人の中塚仁視さん。今回の現場は岡山県浅口市を通る玉島笠岡（たましまかさおか）道路の改良工事。導入の経緯を現場代理人の中塚さんに聞いた。「今回、現場事務所として初めてICT土工で施工しました。昨年施工した現場の近くで国土交通省主催で、マシンガイダンスとマシンコントロールの建機の比較が出来る見学会が開催されていました。そこで施工性や機能の違いを知り、オペレータの技量に左右されずに施工が出来るマシンコントロールに興味を持ったことと、会社の方針でもある、今後の技術に先駆けてノウハウを蓄積させ今後に繋がりたいと考え、導入を決めました。」と教えてくれた。



現場代理人・監理技術者

中塚仁視さん

協力会社（株）備創建設  
オペレータ 杉山裕一さん岡山県  
（株）荒木組様

大正10年創業

中国地区を中心とした総合建設業

“心 技 体”

心を磨き 技術を高め 完遂する実行力  
をモットーにし、

“魂の現場”

を土木部のスローガンとし、日々、積極的に新しい技術を取り入れ、品質向上に  
努めている。

掲載月:2016年11月

データ通りの施工  
工夫次第で広がる未来

「従来の法面整形はオペレータの腕と目視での確認で判断していたがICT建機は運転席から降りなくてもデータ通り施工してくれるからいいね。」と現場代理人の中塚さんは教えてくれた。ICT建機に乗った感想をオペレータの杉山裕一さんに聞いた。「法面施工は上手なオペレータだとスムーズに出来ませんが、法面にバケットが接する瞬間の強さ加減の調節が難しいんです。ICT建機はマシンコントロールで制御されるので安心して施工出来ました。特に切土は掘り過ぎが無いので手戻り作業が無いのが良かったです。」と話した。現場代理人の中塚さんは、「今回は念の為と思い、丁張を設置した部分もあったが次回からは丁張レスで出来る。切土・盛土工事など工夫次第でいろいろな使い方が出来るのではないかと感じました。これからは若い人や女性でも現場で活躍する未来の現場が想像できたよ。」と話した。

